

Joint East Asian Project (東アジア共同プロジェクト)

●概要

20 世紀までの西洋的合理主義の限界と、21 世紀は中国を中心としたアジアの発展は疑う余地のない現実と言えます。これは大量生産、大量消費と言う自由の名のもとに発展を続けた物質文明の終焉であり政治、経済、哲学、科学、と宗教との新たな整合性を求める時代でもあります。20 世紀までにおきた紛争、差別、貧困など人間の根幹に携る意識は、今世紀も新たな複雑な問題として広がる恐れがあります。しかし、アジアの長い歴史に根付く文化にはそれを超えられる力があります。それはやがて地球規模で人間の生きるという価値観の変化を生む可能性を感じずにはおれません。これから、人類が平和に、お互いを思い合える夢の時代を創造するための種まきが、この東アジア共同プロジェクト構想です。

●アート of 意義 と アーティスト の責任

国家利益や企業利益や宗教利益など 20 世紀の進歩の中で利益を獲得するため人類は活動し知恵をしばってきました。そして私たちの存在は、生まれた国、生活する場所により、この利益構造のどこかに所属し、報道、プロパガンダなどその地域の情報操作の中で生きています。つまり私たちは、利益社会の中での情報下のもと真実が見えにくい社会に生きていくこととなります。しかしアーティストと言うとても敏感で真実を隠す社会に適応できない人種は、社会に対し日常あたり前の情報を疑わせる表現力を持っています。20 世紀の芸術は物事の真実や未来の提言を与えるものとして発達してきたと言えるのであれば、21 世紀のアートはより社会にその必要が高まりアーティストは社会になくなくてはならない存在になり、芸術家の社会的責任はより重くなると考えます。

●東アジアでアートを通じた対話と共通認識を創ることの重要性

21 世紀アジアの時代は、発展的価値観を創造しなくてはなりません。国家や人種を超えた共通の価値観の創造はやがて西洋的合理主義で解決できない問題に答えを出し、人類がお互いを尊重し生きて行ける人間利益を産み出すでしょう。そのために重要な役割が 21 世紀型の芸術のありかたであると思います。その種作りは一国ではなく東アジアと言う地理的、歴史的、人種的、特異な地域で共通の価値観を構築すること (アートのブロック化) により大きな実を結ぶでしょう。そして、アジアの経済的発展と共に世界にこの価値観が広まり、人類が西洋的合理主義とは異なる新たな生きるための価値が見出せると考えます。このことが東アジア共同プロジェクトの目的なのです。

●日本の芸術に求められる事は 「自立」

戦後、驚異的な発展を遂げた日本は、20 年前に世界一豊かな国になりました。日本の芸術はこの経済発展に支えられ、村社会独特の家元制度と利益配分構造が護られてきました。日本独特の村

社会では特質した表現や強い個性は不必要であり、徒弟制度の中、人間関係が重要でした。これは日本の社会全体が緩やかな社会主義国家であるように、芸術の世界も年功序列が基本であったと言えます。しかし情報革命により国境が崩され、グローバル化が進む現代社会に日本の村社会に、緩やかな変化が起き始めています。私たちの社会で最も重要なキーワードは「自立」です。一人一人が自身の生き方、社会との関わり方、仕事のあり方を考えなくては日本の未来はないでしょう。そこに必要な事は自己主張と対話です。これからアーティストの表現や創造性は必ず社会に必要な事となるでしょう。しかし日本の芸術の中で特に美術はもっともグローバル化が遅れ悲観的です。アーティストを目指す者は、この硬直した体制の中から「自立」する覚悟が必要です。また、美術館、美術大学、ギャラリー、マスコミなどの縦構造を横向きに変えなくてはなりません。日本の美術全体に最も必要なことが「自立」と言うことになります。

●東アジア共同プロジェクト

この考え方は、単にアートの交流をすることではなく、東アジアで共通の意識と価値観を創造することが目的です。ですので、短期的な経済的論理では完成しません。時間をかけてじっくり作ることが重要です。スタートとして日本と韓国からその幕は下ろされます。第一回目は日韓のディレクターが、東アジアで共通の価値観を表現する作家を1名選び、両国で個展を開催します。

2010年 日韓交流展 4月 キム・ジュンシク展（東京）

5月 佐藤令奈展(ソウル)

2011年 日中韓交流展 各国のディレクターが作家1名を選び3カ国で個展を巡回する。

2012年 東アジア交流展 前年の開催国に台湾を加え 4カ国で巡回する。

↳

2015年 東アジア交流展 4カ国から公募形式で作家を選定し 4カ国で巡回する。

2018年 東アジア地区のコンテストを開催する。

以上のスケジュールで展開をして行きます。このプロジェクトで生まれたアーティストは 国家、民族を超え東アジア 4カ国で育てた作家として東南アジアへ波及し、最終的に欧米との文化的対決となるでしょう。

●東アジア共同プロジェクトを成功させるため

最も必要な事は、社会をより改善したよりよい未来を作りたい。と考える人々に多くの賛同を得ることだと考えます。特に美術関係者のみならず人文、社会、自然科学の研究者の参加を期待しています。また、弊廊でもシンポジウム、ディスカッションなど多くの活動をして行く予定ですので、皆様のご理解、ご参加を心よりお待ちしております。

2009年 11月 19日

ギャラリーアートコンポジション

ディレクター 関和宏